

北欧の成功ースウェーデンの事例

Staffan Wahlén
Swedish National Agency for
Higher Education

Japan - Nordic Symposium

1

背景

- 約34万人の学部生
- 約2万5,000人の大学院生
- 14校の国立大学
- 3校の半私立高等教育機関
- 22校の単科大学(芸術大学7校を含む)

Japan - Nordic Symposium

2

学位制度

- 3年間の学士課程
- 1年間の修士課程
- 4年間の博士課程
- ボローニャ・プロセスは3-2-3制
(スウェーデンでは3-1-4制)

目的

- 保証(管理、認定)
 - 高等教育の成長、50%の目標
- 向上
- 情報提供
 - ランキングは含まれない

基本要素

- 認定(1992～)
- 機関の質監査(1995～2002)
- 分野別・プログラム別評価(2001～)
- テーマ別評価

認定

- 修士課程を対象とした認定(ボローニャ・プロセスの修士課程も含む)
- 専門職学位を対象とした認定
- 総合大学へ昇格するための認定

高等教育機関の質監査

- 目標－向上
- 機関の質活動の評価
- 自己評価－ピア・レビュー－訪問調査－
報告書の公表－フォローアップ

質監査(2)

- 検討対象(重点項目)
 - － 学術的なリーダーシップ
 - － ステークホルダーとの協力関係
 - － 教職員の積極的な関与
 - － 質活動の一体化
 - － 評価・フォローアップ活動
 - － 国際化
 - － 男女平等

分野別・プログラム別評価

- 学位授与につながる専門分野・プログラムの評価(およそ1,700件の評価)
- 6年サイクル
- ピア・レビューによる訪問調査、報告書の公開、フィードバック、フォローアップ(専門家約900人が参加)
- 高等教育庁による決定(「認定」)

分野別・プログラム別評価(2)

- 検討対象
 - 必要条件
(教員資源、教員の資質、図書館、研究室、等)
 - 目的と組織
 - 指導法と試験方法
 - 論文
 - 修了率

テーマ別質監査

大学の以下に関する取り組みを対象とする

- 国際化
- 社会との協力関係
- 学生の影響力
- 男女平等
- 学生支援

特徴

- 評価委員として学生が参加（博士課程の学生を含む）
- 専門分野とプログラムの全体像把握
- 是正措置
- 博士課程プログラムも対象
- 体系的なフォローアップ

質監査の効果

- 大学のリーダーシップと質保証戦略の向上
- 学生の影響力の強化
- ステークホルダー(業界、雇用者、等)との協力関係の改善
- 質活動に与えた実際の効果を測定するのは困難

プログラム別・分野別評価の効果

- プログラム全体の約10パーセントが問題を指摘されたが、実際に中止されたものはひとつだけ
- スタッフ・ディベロップメントの発展、教員の資質向上
- さらなる協力、専門化、資源の集中化
- 教員養成教育――高等教育省令の改正、組織・教員体制の再編、シラバス・教材・試験方法の改革

質保証機関自らの訓練

- 機関の活動自体の質保証：
 - 継続的な内部のモニタリング
 - 年に1度の分析報告
 - 多様な関係者からのフィードバック
 - 外部のモニタリングと評価

新しいモデル

- 高等教育機関の内部質保証体制と強化
- モニタリングのデータに基づく少数の分野別・プログラム別評価
- テーマ別評価(学習指導法、等)
- 指導と学習における優れた取り組み
- 学位授与権の見直し